

集落ぐるみのシカ被害防止管理体制モデルの構築

(徳島県海陽町櫛川地区)

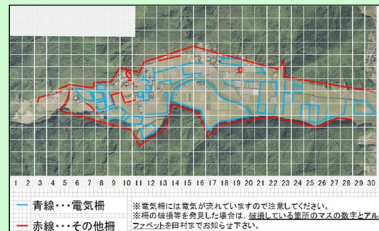
- 電気柵や侵入防止ネットなど侵入防護柵の設置箇所を地図上に示した侵入防護柵マップを作成し、集落で共有
- 地域住民が侵入防護柵を点検し、破損箇所等の情報をマップ化して地域の担い手に集約することで、速やかに破損箇所等を修繕
- 集落で野生鳥獣による被害の情報を共有することで被害防止管理体制を構築
- 集落の取組成果を町全体に展開
- 3年間で被害額が8割減少

取組内容

- 専門家を招き、野生鳥獣の生態や対策方法について研修会や野生鳥獣の侵入ルート等を確認する集落点検を実施
- 「侵入防護柵マップ」を作成し、集落で侵入防護柵の設置状況を共有
- 侵入防護柵マップはメッシュ化することで、地域の担い手が破損箇所を把握し、迅速に修繕できる管理体制(侵入防護柵の点検は地域住民が、破損箇所の修繕等は担い手が行う役割分担)を整備・構築
- 破損や野生鳥獣の侵入が多い箇所については、電気柵を設置することで侵入を防止し、被害を軽減



研修会の実施



侵入防護柵マップの作成



侵入防護柵の点検

成果

- 侵入防護柵の管理が徹底され、破損や野生鳥獣の侵入が多い箇所に電気柵を設置することにより、野生鳥獣の侵入や被害額は減少
(H29年度:10万円 → R2年度:2万円)
- ↓
- 集落での役割分担による被害防止管理体制が構築され、「集落の農地は集落で守る」という意識が向上

集落ぐるみのシカ被害防止管理体制モデルの構築(徳島県海陽町櫛川地区)

きっかけ・背景

- 侵入防護柵等を設置しているが、被害継続
- 高齢化によって侵入防護柵の管理継続が困難に



研修会の実施

課題

- 集落で取り組む効率的な侵入防護柵の管理体制の構築



侵入防護柵の点検

Step1 勉強会、集落点検 (H30)

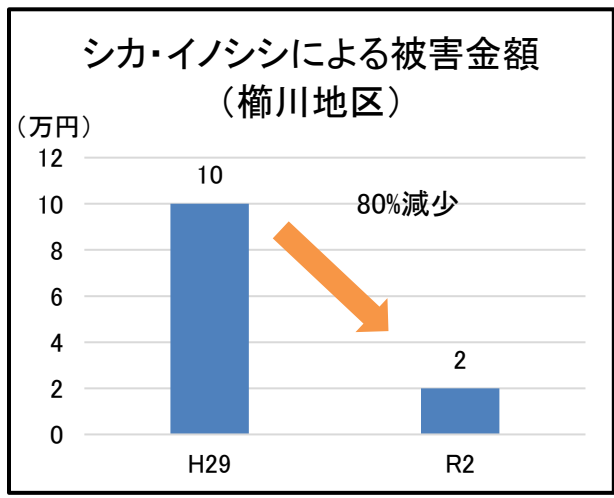
- 専門家を招き、野生鳥獣の侵入ルートや侵入防護柵の設置状況を確認
- 電気柵の原理や設置方法について研修を実施

Step2 被害対策の合意形成 (H30)

- 被害防止計画の策定及び侵入防護柵マップの作成
- 補助事業等を活用し、電気柵を延長

Step3 持続可能な鳥獣対策 (H30～)

- 侵入防護柵の点検情報が担い手に集約される仕組みづくり
- 野生鳥獣を集落に近づけないため、草刈り等により緩衝帯を整備



取組の特色

- 侵入防護柵マップは集落をメッシュ化することで、破損箇所を容易かつ適確に担い手へ伝達
- 集落ぐるみで侵入防護柵を点検し、情報を受け取った担い手が破損箇所を修繕するという管理体制を構築

取組による成果・効果

- 侵入防護柵マップを作成し、集落の農家に配布することで、侵入防護柵の設置場所の確認、破損した箇所の把握及び修繕等が迅速化
- 集落ぐるみの侵入防護柵の管理体制が構築され、野生鳥獣による侵入や被害が減少
- モデル集落の成果を周辺地域と共有するなど、モデル集落の取組を町全体に波及